

# 秋葉の杜

異なる文化が集い一つの森を形成する。

四季とともに移ろいながら、まちに個性を。

それぞれの棟が、連結し混ざり合う。

螺旋は周囲の文化を巻き込み、

時に混沌を生み出しながら、新たな創造を生み出す。

高層ビルが立ち並んだ都会はどこを歩いても、いつ歩いても、同じような景色が広がっている。通りに沿って同じ向き、高さの建物が、まるで壁のように直線的に続き、人々が歩く道を取り囲んでいる。灰色に囲まれ、時候の特徴を感じる場面は少ない。そんな中で、都会の中にこんな杜があれば、都会で時間を過ごす中でも、季節の色を感じながら、働き、生活していくことが出来るのではないだろうか。



## 屋上庭園 ～梢の庭～

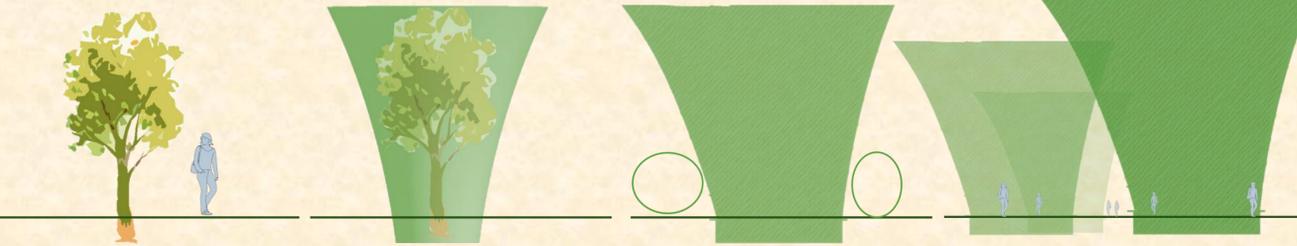
各棟には梢の庭と名付けた屋上庭園がある。広場の真ん中にはシンボルツリーを植え、それを囲うように滞留空間や、会議室を設置している。季節の移ろいを感じながら仕事をすることが出来る。

各棟は、屋上庭園を介して繋がっており、屋上庭園が他の棟、分野で仕事をする人との交流を生む場所となる。



建物が上から覆い被さり、まるで木々の枝葉を下からのぞいたような、大きな枝葉の屋根の下にいるような景色が広がっている。

## 空間構成のダイアグラム

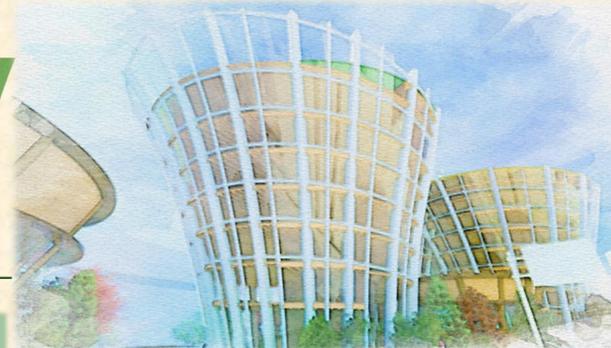


季節の移ろいを感じさせ、その土地ならではの景色を生み出す植物。

植物をデフォルメしつつ、直線的なまちで、特徴的となる曲線を用いたシルエット。

より反りを持たせた外観は、特徴的なシルエットとなり、広く高い滞留空間を生み出す。

大きさの違う様を、ランダムに置くことで棟どうしが重なり合い、杜のような美しい空間を作り出す。



敷地の外へせり出す螺旋状のデザインのファサードは、外部を巻き込むイメージを表す。

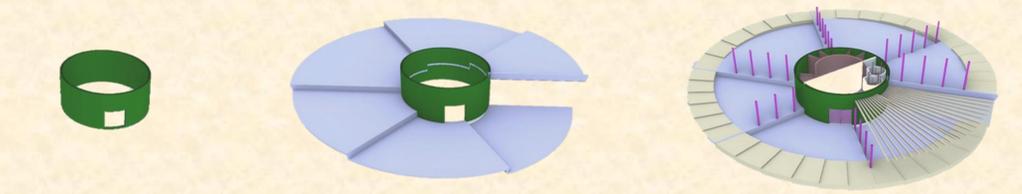
## 四季の色をみせる杜

春、ソメイヨシノと川津桜を植え、北に通る電車から桜並木が見える。北側の飲み屋街で飲んだ後、ふらっと立ち寄って花見酒も。  
夏、夏に花を咲かせる、ハナミズキやケヤキを植え、5月に行われる北東側の神田祭の神輿を引き込む。  
秋、トウカエデやコナラが紅葉をみせ、どんぐりを落とす。  
冬、ナナカマドやロウバイといった、冬に花や実をつける植物を植え、小鳥たちがご飯を食べに来る。



樹木配置計画図

## 内部空間のダイアグラム



センターコア方式で、スラブが円形に少しずつ上がるらせん状のつくりになっている。スラブの外周に大きな階段が設けられている。らせんのアイデアは立体駐車場の車がのぼるためのスロープから着想を得ている。

## 実りの杜



らせん状のオフィス空間。まるで木の中で働いているような感覚をあたえる。階層を移動する際に、人との接触する機会を生み、新たな創造のヒントを生む。天井は、秋葉原の名のルーツである秋葉神社を感じさせる、垂木をモチーフとしている。

## 階層計画

- 9, 10F 屋上庭園兼会議室 ～梢の庭～
- 2～8F オフィス ～実りの杜～
- 1F 展示スペース ～文化の年輪～
- B/F 発信スペース ～Root～

ここから文化を発信し、新たな文化のルーツをつくる。



## ランタン広場

敷地の中心には、火を治める秋葉神社にちなみ、火をイメージさせる、ランタンをモチーフにした照明を設置している。照明の周りに腰かけながら、飲食店で買ったものを食べ、四季の移ろいを感じることが出来る。敷地内の交流の中心となり、夜にはこの杜の中をばんやりと照らしてくれる。